

令和元年度 学校評価について

(朝来市立生野小)学校

4:よくできた 3:できた 2:あまりできなかった 1:全くできなかった

	評価の観点	回答者数(%)表示				今後の改善について	自己評価の妥当性(学校関係者評価の意見等)
		4	3	2	1		
学校運営	開かれた学校づくり	家庭や地域の人々への情報発信	76%	24%			<p>「学校評価について」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、学校教育目標を「ふるさとを愛し 主体的に考え行動できる 自立した子」とし教育活動に取り組んできました。 ・評議員の方々には、オープンスクールやふれあい音楽会、登下校や地域での児童の様子から、学校の取組の成果を学校内外で感じると評価していただいた。さらに、今回の学校評価や今後の改善策についても妥当性を認めていただいた。 ・今後も、学校目標実現のためさらに取り組んでいきたい。
		オープンスクール(学校公開)など住民参加の教育活動の推進					
	生徒指導	豊かな集団生活が営まれる学級づくり	67%	33%			<p>「基本的な生活習慣について」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶については、集団登校や社会体育など、集団の中では、大きな声でできている。しかし、地域に帰る一人では、なかなかできていない状況もある。不審者がおこした事件についてたくさんの方が報道されているので、そのことが影響している面もあるのかもしれないが、今後も学校で指導を続けていくことは必要である。 ・さらに、家庭でのしつけが大切である。そのためにも、学校から保護者への呼びかけだけでなく、PTAからも保護者に呼びかけ、保護者の方々に自分のこととしてとらえていただき、挨拶の輪を広げて行く取組が必要である。
		児童生徒の内面理解を図る指導の工夫					
		いじめ、不登校、問題行動、ネットトラブル等への適切な対応					
	進路指導(中)	進路選択能力の育成					
危機管理体制の整備	マニュアルの点検・見直し	56%	44%			<ul style="list-style-type: none"> ・交通面や防犯面を考えた通学路点検を行うことができた。 ・児童への安全指導の徹底や関係機関と連携した実践的な訓練に取り組んでいく。 	
	地域課題に応じた防災、防犯教育の実施						
教育課程	自ら学び自ら考える力の育成	指導内容の工夫改善	73%	27%			<ul style="list-style-type: none"> ・学校では、学期初めの1週間などの期間を決めて、児童が自分で生活リズムを整えるきっかけになるよう、毎日の起床時刻、学習時間やゲームをした時間などをチェックする取組を行っている。 ・社会問題となっているネット依存の児童が増加しているなどの状況もある。さらに、PTAと協力し、ノーテレビ、ノーゲームの取組を今後も進めてほしい。食事の時はテレビを消すなどの具体的な取組を紹介し、できることから始めていけばいいのではないだろうか。 ・地域での交流がなくなるなど社会環境が変わってきている。地域で子どもを育てることも難しくなっている。来年度から本格的に始まる学校運営協議会でも学校・家庭・地域の協力のあり方を考えていく必要がある。
	基礎・基本の定着と個に応じた学習指導の充実	指導内容・指導方法の工夫改善、評価方法の創意工夫	73%	27%			
	道徳教育	授業研究の充実と指導の工夫	80%	20%			
	外国語教育(小)	授業研究の充実と指導の工夫	93%	7%			
	総合的な学習の時間	全体計画に基づく工夫改善	40%	53%	7%		
課題教育	人権教育	人権尊重の精神の育成	47%	53%			<p>「いじめについて」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的に「生活アンケート」や「いじめアンケート」を実施し毎月の生徒指導委員会にて情報交流するなど児童の様子の変化にアンテナを高くしたり、児童の気持ちに寄り添いながら児童理解を深める研修に取り組んだりすることは継続してほしい。ただ、いじめは、どこにでも起こりうるという意識を教職員にもう一度確認していただき、未然防止・早期対応に取り組んでほしい。 <p>「学校行事について」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全校生がそろい、児童一人ひとりが素晴らしい歌声を披露してくれる音楽会を毎年楽しみにしている。ほかの小学校ではない、生野小学校ならではの取組である。これからも続けてほしい行事である。 ・継続してほしい行事であるが、来年度から授業数が増える。音楽会に向け使える授業数が無限にあるわけではない。子ども達に過度な負担がかからないよう、完璧なものを目指すのではなく、ある程度割り切った心で余裕を持って取り組むことが大切である。 ・一つの行事を取り組むことで、児童はたくさんのおもしろいことを身につける。行事をやりきるとは、児童にとっても大切である。しかし、行事にかける時間と学習時間をバランスよく計画しなければならない。何もかも全部でできるわけではないので、行事の精選は大切である。学校教育目標や地域の願いなどを念頭にやるべきこと、しないことを分けなければならない。
	体験活動の充実	自然学校、トライやる・ウィーク等を含めた体験活動の充実	93%	7%			
	キャリア教育	社会的自立に必要な態度や能力の育成	40%	60%			
特別支援教育	校内の指導体制、個に応じた指導	67%	30%	3%		<ul style="list-style-type: none"> ・UD(一人一人の教育的ニーズに応じた個別指導の工夫)について引き続き研修を行っていく。 	
あさごドリムアップ事業	特色ある学校づくり	93%	7%			<ul style="list-style-type: none"> ・地域の外部講師を招き、ふるさとの歴史や文化を学ぶ特色ある取組を行っている。 	
その他							

* 学校関係者評価の意見は文章表現でお願いします。